

## 17歳の刻印

今でこそ、留学や海外研修は珍しくなくなりましたが、つい40、50年前まではごく少数の人たちに限られた機会でした。今年度をもって退官される共通講座の平野温美先生はそうした経験を持つお一人。60年代の初めに17歳の若さでアメリカに留学した貴重な思い出をつづっていただきました。

高校時代の一年間、アメリカで過ごしました。大学または大学院での留學生活とは共通しない経験かもしれません。しかし私にとっては、将来を決めるほど大きい出来事でした。遠い昔になりますが、あの頃を少し思い出してみます。

第二次世界大戦後に始まった平和活動のひとつに、高校生をアメリカに呼ぶというAFS奨学制度があります。豊かなアメリカが設けたボランティア活動で、地域の学校や家庭がすべて面倒を見てくれる制度です。毎年数千人を世界中から受け入れ、私もその機会を得たひとりでした。私の時代は文部省が日本の学生の選択に携わって、県、地方、全国と3段階の選抜がありました。戦争で負けたからこそでしょうか、アメリカに対する憧れは戦後ずっとみなぎっていたと思います。



共通講座 教授  
平野 温美

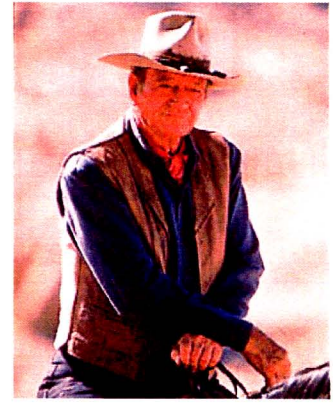
出発は1962年夏、1ドル360円の時代です。私たちのほとんどは、海外渡航はもちろん、これが生まれて初めて飛行機でした。離陸時のエンジンの轟音に、機内では悲鳴と泣き声が上がったのを憶えています。直行便はありませんから、ホノルルで乗り換えをしました。タラップを降りると、明るい日差しの中、にこやかなハワイ女性がひとりひとりにレイをかけてくれました。レストランでは、何と映画俳優ジョン・ウェインを見つけ、大騒ぎで写真を撮ったものです。9.11の翌年、学会発表を機に40年ぶりにホノルルを再訪しましたが、あののどかな光景は望むべくもありませんでした。



現在のホノルル

西海岸に一週間滞在した後、飛行機と長距離バスを使って、ひとり目的地ニューヨーク州の小さな町へ向かいました。空から見ても陸地を走っても、何と広大な国かと驚愕したものです。戦後の復興途上の日本と比べ、何と物の溢れた国かと、これも衝撃でした。途中、大量の食べ物が無駄に投棄されるのを目撃した時は、理解しがたい感覚に襲われました。

ホスト家族との生活そして学校生活は何もかもスムーズというわけではありませんでしたが、多くを学びました。他国の風俗習慣を客として観察するのではなく、当事者のように振る舞うことができたのは、高校生だったからでしょう。伝統行事の参加、ご近所親戚家族の付き合い、若者の遊び、地元の野球チームの応援、挙げ句はキリスト教徒ではないの



ジョン・ウェイン

に、気がついたら教会の聖歌隊に入っていました。もちろん私も着物を着て踊ったり、日本紹介のスピーチをしたり慣れないこともしました。



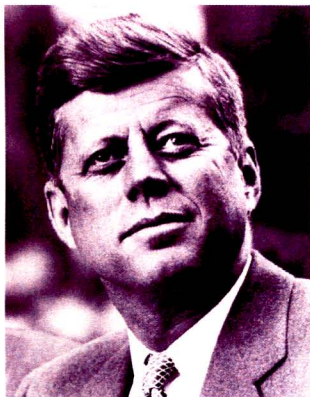
星条旗に忠誠を誓う子供

学校の勉強も刺激的でした。化学は比較的やさしい科目でした。アメリカ文学とアメリカ史は最も苦勞したぶんよく学んだという充実感が残っています。本を沢山読まされました。歴史教育の熱意は非常に高く、生徒を建国以来の主流の歴史に巻きこむ方針は、戦後日本の物語性のない歴史教育を受けた者には強い印象を残しました。しかし毎朝の朝礼で、胸に手を当てて国旗に向かい、忠誠を誓う儀式には最後まで戸惑いがありました。自分は外国人であると強く意識する瞬間であったからです。

私が滞在した時期は、その後の変革時を考慮すると、古いアメリカが温存された最後の時だったのではないのでしょうか。例えば、女子学生はたとえマイナス30度の寒さであってもズボンををはくことは許されませんでした。各宗派の教会は地域の重要な社交場としてよく機能していました。固定的な人種観も感じました。車社会ではありますが、18、19世紀に通ずるような雰囲気も残されていたと、今懐かしく思い出しています。

宗教を、いわば「科学的」な目で批評することは憚れると分かったのは、ある事件からです。仲よしの友達と話していて、私は聖書の「創世記」は単なる神話だと生半可に主張したのです。翌日、校長先生に呼び出されました。友人は昨夜、泣きながら牧師に訴え、牧師が校長先生に知らせたというわけです。

「彼女は両親に縁がなく、神の教えのみが支えなのです。その支えをあなたは壊そうとした。」校長の穏やかな声に、私は事の重大さを知ったわけです。人の精神の形を心に銘じた事件でした。



ケネディ大統領

時の大統領はケネディでした。その年の「キューバ危機」は、大統領が試された事件として記憶されています。翌1963年夏、大統領が帰国する留学生たちをホワイトハウスの庭に招待してくれ、演説をしました。私たちは大興奮。なにせスーパーヒーローだったのですから。「次にアメリカに来る時は、自分の国の大統領がファーストレディとして来て欲しい」と締めくくった直後、若者達がヒーロー目がけて殺到。ネクタイやボタンを引きちぎったものです。



# ぼたん園を散策 ～野草観察ハイキング～



5月16日、恒例の野草観察ハイキングが催されました。今年の見どころは市内の河西ぼたん園。今年で15年目、毎年必ず晴れるこのイベントは、今年もやはり最高のお天気に恵まれました。はじめに、山岸国際交流センター長による、ぼたん園の歴史や現状についての説明があり、参加した北見市民と留学生など50余名は、野草の解説を聞きながら、園内の散策を楽しみました。散策の終わりには、童心に返って四つ葉のクローバーを探したり、草笛の吹き方を教わっていい音を出そうと盛り上がる光景も。その後、昼食は今年も北見東ロータリークラブと国際ソロプチミスト北見の皆様のご厚意で、ジンギスカンに舌鼓を打ちました。



韓国からの短期留学生、キム・ボムギさんは、「友達を作って、ジンギスカンを食べて、ほんまに楽しかったです」と満足そうでした。また、ベトナム出身の1年生、ファム・スアンケンさんは、「これからはおなかがすいたら、野草を採って夕食にできそうです。香りもいいし、お金もかからないし」と笑顔で語っていました。



草笛に興じる



見つけた！四つ葉



ジンギスカン鍋を囲んで

他国の大統領に影響されることはあるもので、同期の留学生の多くはケネディから、世界平和とか貢献という概念について強く感化されています。だから、帰国して数ヶ月後、大統領暗殺のニュースは打撃でした。

その後私は、大学に入り、アメリカ文学を生涯の研究課題としてきました。留学はその入り口となったのです。特に今19世紀アメリカ文学に専心しているのは、あの時の歴史のクラスと深いところで繋がっているとも言えます。17歳から18歳に刻まれた体験は深いだけ、その投影も長いかもしれません。

## 日本語劇上演のお知らせ

7月24日（金）14時40分より、日本語初級I・IIクラス受講生による日本語劇を上演します。

昨年度公開してとても好評だったオリジナルの日本語劇です。今学期の日本語学習の集大成を、是非ご覧下さい。場所は総合研究棟3階です。劇の題名はお楽しみに！

# 新留学生歓迎焼肉パーティー



5月21日、今年も新留学生歓迎焼肉パーティーを催しました。ここ何年か、雨や寒さに見舞われていた春の歓迎会でしたが、今年は暖かな陽気に恵まれ、留学生、チューター、教職員など約100名が集いました。



炭火を囲みながら、新しい留学生が一人ずつ前に出てひとことずつ自己紹介を行いました。中国出身の新1年生、孫博龍さんは、「国を離れるときに彼女とサヨナラ！今は恋人募集中」と言うなり電話番号を公表し、拍手喝采を浴びていました。

ひとしきり飲み食いを楽しんだ後はのど自慢。国ごとに順にマイクが渡り、それぞれの国の曲や日本のヒット曲など、元気な歌声が春の夜空に響いていました。



## お知らせ

\* 次回のインターナショナルCアワーは、8月7日（金）に予定しています。前期試験の最終日である8月7日は、1ヶ月遅れの北海道の七夕。皆で短冊に願い事を書き込んで飾りましょう。4時半から、総合研究棟3階のリフレッシュルームです。

\* 置戸町より本学留学生に、7月26日（日）のおけと湖水まつりへの招待がありました。流水アート、カヌー体験、ダム見学などのイベントが予定されています。参加希望者は国際交流センターで申し込んでください。

\* 国際交流センターでは、今後は月に一度、定期的に入国管理局に出向くことにしました。在留期間の更新手続き、再入国許可書、資格外活動許可書などの申請が必要な留学生は、月の初めに国際交流センターに申し出て書類の準備をしてください。20日前後に出向きます。

\* 昨年度末で退職した、河合 前国際交流推進室長が、6月末より非常勤職員として国際交流センターに復帰しました。

World Wisdom

誰かを深く愛せば、強さが生まれる。  
誰かに深く愛されれば、勇気が生まれる。

—老子

（中国の思想家）